

『続日本紀』の薨卒記事

野口武司

〈輩行次第の記事記載に関して〉

当該記事記載を簡略化して示すと次の如くなる。

- | | | |
|------|--|-----------|
| (7) | 淨廣貳弓削皇子薨。……………皇子。天武天皇之第六皇子也。 | 文武3・7・21条 |
| (25) | 三品忍壁親王薨。……………天武天皇之第九皇子也。 | 慶雲2・5・7条 |
| (51) | 右大辨從三位石川朝臣宮麻呂薨。……………近江朝大臣大紫連子之第五男也。 | 和銅6・12・6条 |
| (55) | 大納言兼大將軍正三位大伴宿禰安麻呂薨。……………安麻呂。難波朝右大臣大紫長徳之第六子也。 | 7・5・1条 |
| (58) | 一品長親王薨。……………天武天皇第四之皇子也。 | 靈龜1・6・4条 |
| (59) | 知太政官事一品穗積親王薨。……………天武天皇之第五皇子也。 | 1・7・27条 |
| (61) | 二品志貴親王薨。……………親王。天智天皇第七之皇子也。 | 2・8・11条 |

- (75)² 右大臣正二位藤原朝臣不比等薨。……………大臣。近江朝内大臣大織冠鎌足之第二子也。養老4・8・3条
- (101) 從二位大納言多治比真人池守薨。……………左大臣正二位嶋之第一子也。天平2・9・8条
- (103) 大納言從二位大伴宿禰旅人薨。……………難波朝右大臣大紫長德之孫。大納言贈從二位安麻呂之第一子也。" 3・7・25条
- (109) 一品新田部親王薨。……………親王。天淳中原瀛真人天皇之第七皇子也。" 7・9・30条
- (111) 知太政官事一品舍人親王薨。……………親王。天淳中原瀛真人天皇之第三皇子也。" 7・11・14条
- (116) 參議民部卿正三位藤原朝臣房前薨。……………房前。贈太政大臣正一位不比等之第二子也。" 9・4・17条
- (122) 參議兵部卿從三位藤原朝臣麻呂薨。……………贈太政大臣不比等之第四子也。" 9・7・13条
- (124)¹ 左大臣正一位藤原朝臣武智麻呂薨。……………贈太政大臣不比等之第一子也。" 9・7・25条
- (126) 參議式部卿兼大宰帥正三位藤原朝臣宇合薨。……………贈太政大臣不比等之第三子也。" 9・8・5条
- (130) 中納言從三位多治比真人廣成薨。……………左大臣正二位嶋之第五子也。" 11・4・7条
- (134)¹ 廣嗣。……………式部卿馬養之第一子也。" 12・11・5条
- (184) 武部卿從三位藤原朝臣弟麻呂薨。……………平城朝贈正一位太政大臣武智麻呂之第四子也。天平寶字4・6・17条
- (190) 散位從三位紀朝臣飯麻呂薨。……………淡海朝大納言贈正三位大人之孫。平城朝式部大輔正五位下古麻呂之長子也。" 6・7・19条
- (191) 御史大夫正三位兼文部卿神祇伯勲十二等石川朝臣年足薨。……………年足者。後岡本朝大臣大紫蘇我臣牟羅志曾孫。平城朝左大辨從三位石足之長子也。" 6・9・30条

- (203) 從三位授刀督兼伊賀近江按察使藤原朝臣御楯菟。……平城朝贈正一位太政大臣房前之第六子也。 " 8・6・9 条
- (204) (惠美)押勝……………近江朝內大臣藤原朝臣鎌足曾孫。平城朝贈太政大臣武智麻呂之第二子也。 " 8・9・18 条
- (213) 右大臣從一位藤原朝臣豐成菟。……平城朝正一位贈太政大臣武智麻呂之長子也。大臣第三子乙繩。平生與橘奈良麻呂相善。 天平神護 1・11・27 条
- (214) 大納言正三位藤原朝臣眞楯菟。……………平城朝贈正一位太政大臣房前之第三子也。 " 2・3・12 条
- (215) 刑部卿從三位百濟王敬福菟。……其先者出自百濟國義慈王。高市岡本宮馭宇天皇御世。義慈王遣其子豐璋王及禪廣王入侍。泊于後岡本朝廷。義慈王兵敗降唐。其臣佐平福信尅復社稷。遠迎豐璋。紹興絕統。豐璋纂基之後。以譜橫殺福信。唐兵聞之復攻州柔。豐璋與我救兵拒之。救軍不利。豐璋駕船遁于高麗。禪廣因不歸國。藤原朝廷賜號曰百濟王。卒贈正廣參。子百濟王昌成。幼年隨父歸朝。先父而卒。飛鳥淨御原御世贈小紫。子郎虞。奈良朝廷從四位下攝津亮。敬福者即其第三子也。 " 2・6・28 条
- (233) 左大臣正一位藤原朝臣永手菟。……………奈良朝贈太政大臣房前之第二子也。 寶龜 2・2・22 条
- (256) 參議大宰帥從三位勳二等藤原朝臣藏下麻呂菟。……………平城朝參議正三位式部卿大宰帥馬養之第九子也。 " 6・7・1 条
- (259) 參議從三位大藏卿兼攝津大夫藤原朝臣楓麻呂菟。……………平城朝贈太政大臣房前之第七子也。 " 7・6・13 条
- (269) 內大臣從二位勳四等藤原朝臣良繼菟。……………平城朝參議正三位式部卿大宰帥馬養之第二子也。 " 8・9・18 条
- (276) 贈故入唐大使從三位藤原朝臣清河從二位。……清河贈太政大臣房前之第四子也。 " 10・2・4 条

- (281) 參議中衛大將兼式部卿從三位藤原朝臣百川薨。……百川。平城朝參議正三位式部卿兼大宰帥宇合之第八子也。
" 10・7・9 条
- (282) 中納言從三位兼勅旨卿侍從勳三等藤原朝臣繩麻呂薨。……繩麻呂。右大臣從一位豐成之第四子也。
" 10・12・13 条
- (289) 前大納言正二位文室真人邑珍薨。……邑珍。二品長親王之第七子也。
" 11・11・28 条
- (292) 參議從四位上藤原朝臣乙繩卒。……右大臣從一位豐成之第三子也。
天應 1・6・6 条
- (295) 三品稗田親王薨。……親王天宗高紹天皇之第三皇子也。
" 1・12・17 条
- (305) 右大臣從二位兼行近衛大將皇太子傳藤原朝臣田麻呂薨。……田麻呂。參議式部卿兼大宰帥正三位宇合之第五子也。
延曆 2・3・19 条
- (306) 大宰帥正二位藤原朝臣魚名薨。……魚名。贈正一位太政大臣房前之第五子也。
" 2・7・25 条
- (313) 參議兵部卿從三位兼侍從下總守藤原朝臣家依薨。……贈太政大臣正一位永手之第一子也。
" 4・6・20 条
- (327) 參議宮内卿正四位下兼神祇伯大中臣朝臣子老卒。……右大臣正二位清麻呂之第二子也。
" 8・1・25 条
- (333) 右大臣從二位兼中衛大將藤原朝臣是公薨。……是公。贈太政大臣正一位武智麻呂之孫。參議兵部卿從三位乙麻呂之第一子也。
" 8・9・19 条

この四二例(213)の二例)を氏族別に整理すると次の如く纏め得よう。

(122)	氏族	藤原朝臣氏
(116)	氏族	藤原朝臣氏
(111)	皇族	天皇
(109)	皇族	天皇
(103)	氏族	大伴宿禰氏
(101)	氏族	多治比真人氏
(75) ²	氏族	藤原朝臣氏
(61)	皇族	天皇
(59)	皇族	天皇
(58)	皇族	天皇
(55)	氏族	大伴宿禰氏
(51)	氏族	石川朝臣氏
(25)	皇族	天皇
(7)	皇族	天皇

(256)	氏族	藤原朝臣氏
(233)	氏族	藤原朝臣氏
(215)	氏族	百濟王氏 (贈小紫郎 虞第三子也)
(214)	氏族	藤原朝臣氏
(213)	(氏族) 藤原朝臣氏	藤原朝臣氏
(204)	氏族	藤原朝臣氏
(203)	氏族	藤原朝臣氏
(191)	氏族	石川朝臣氏
(190)	氏族	紀朝臣氏
(184)	氏族	藤原朝臣氏
(134) ¹	氏族	藤原朝臣氏
(130)	氏族	多治比真人氏
(126)	氏族	藤原朝臣氏
(124) ¹	氏族	藤原朝臣氏

(333)	氏族	藤原朝臣氏
(327)	氏族	大中臣朝臣氏
(313)	氏族	藤原朝臣氏
(306)	氏族	藤原朝臣氏
(305)	氏族	藤原朝臣氏
(295)	皇族	天皇
(292)	氏族	藤原朝臣氏
(289)	皇族	皇孫氏
(282)	氏族	藤原朝臣氏
(281)	氏族	藤原朝臣氏
(276)	氏族	藤原朝臣氏
(269)	氏族	藤原朝臣氏
(259)	氏族	藤原朝臣氏

皇族…………… (7) (25) (58) (59) (61) (109) (111) (289) (295) の計九例、此の中、天皇が (7) (25) (58) (59) (61) (109) (111) (295) の八例、皇孫氏が (289) の一例、計九例、

氏族…………… (51) (55)² (75)² (101) (103) (116) (122) (124)¹ (126) (130) (134)¹ (184) (190) (191) (203) (204) (213) (214) (215) (233) (256) (259) (269) (276) (281) (282) (292) (305) (306) (313) (327) (333)

の計三三例、此の中、藤原朝臣氏が²(75) (116) (122) (124)¹ (126) (134)¹ (184) (203) (204) (213) (214) (215) (233) (256) (259) (269) (276) (281) (282) (292) (305) (306) (313) (327) (333)

の二四例、石川朝臣氏が (51) (191) の二例、大伴宿禰氏が (55) (103) の二例、多治比真人氏が (101) (130) の二例、紀朝臣

氏が⁽¹⁹⁰⁾の一例、百濟王氏が⁽²¹⁵⁾の一例、大中臣朝臣氏が⁽³²⁷⁾の一例、

斯くして皇族が計九例、氏族が計三三例記載され、其の内訳は、皇族では天皇が八例、皇孫が一例、氏族では藤

原朝臣氏が二四例、其他氏族が九例となっており、皇族・氏族の合計四二例中、藤原朝臣氏が皇族・氏族の全合計

四二例中、約六割(五七%)、氏族の全合計三三例中、約七割(七三%)を占めると謂う藤原朝臣氏の記載上に有する際

立った優越性を闡明し得るのである。

『続日本紀』 収載全赦免(咸悉赦除)の記事記載に關して

『続日本紀』 収載の八〇例に及ぶ「天下(大)赦」 渙発事例 (左掲表 (示參稽)) の有り様に就き、之を精細に觀察してみるに、左

記の如く把握し得よう。

A、	執行所由に関する記載の有る事例	1
		4
		5
		7
		9
		10
		11
		12
		13
		14
		15
		16
		17
		18
		19
		20
		21
		22
		23
		24
		25
		26
		27
		28
		29
		30
		31
		32
		33
		34
		35
		36
		37
		38
		39
		40
		41
		42
B、	執行所由に関する記載の無い事例	43
		44
		45
		46
		47
		48
		49
		50
		51
		52
		53
		54
		55
		56
		57
		58
		59
		60
		61
		62
		63
		64
		65
		66
		67
		68
		69
		70
		71
		72
		73
		74
		75
		76
		77
		78
		79
		80
		81
		82
		83
		84
		85
		86
		87
		88
		89
		90
		91
		92
		93
		94
		95
		96
		97
		98
		99
		100
C、	執行範囲に関する記載の有る事例	60
		61
		62
		63
		64
		65
		66
		67
		68
		69
		70
		71
		72
		73
		74
		75
		76
		77
		78
		79
		80
		81
		82
		83
		84
		85
		86
		87
		88
		89
		90
		91
		92
		93
		94
		95
		96
		97
		98
		99
		100
D、	執行範囲に関する記載の無い事例	5
		6
		7
		8
		9
		10
		11
		12
		13
		14
		15
		16
		17
		18
		19
		20
		21
		22
		23
		24
		25
		26
		27
		28
		29
		30
		31
		32
		33
		34
		35
		36
		37
		38
		39
		40
		41
		42
		43
		44
		45
		46
		47
		48
		49
		50
		51
		52
		53
		54
		55
		56
		57
		58
		59
E、	「天下大赦」の記載のみの事例	6
		7
		8
		9
		10
		11
		12
		13
		14
		15
		16
		17
		18
		19
		20
		21
		22
		23
		24
		25
		26
		27
		28
		29
		30
		31
		32
		33
		34
		35
		36
		37
		38
		39
		40
		41
		42
		43
		44
		45
		46
		47
		48
		49
		50
		51
		52
		53
		54
		55
		56
		57
		58
		59
		60
		61
		62
		63
		64
		65
		66
		67
		68
		69
		70
		71
		72
		73
		74
		75
		76
		77
		78
		79
		80
		81
		82
		83
		84
		85
		86
		87
		88
		89
		90
		91
		92
		93
		94
		95
		96
		97
		98
		99
		100

F、全赦免（咸悉赦除）の事例

5^① 18 19 25^② 37 39 41 44 45 76 80の一一例

右記A～Fの中、茲では特にFに関する事柄に就き、聊か鄙見を開陳しておくことにしたい。凡そ斯件の問題に就いては、既に例証されている提言として次下の如きものがある。

『続日本紀』五 （新日本古典文学大系¹⁶ 岩波書店一九九八年二月発行） 二一六頁脚注に「本条（天応元年十二月廿日条）（事例76）（引用者補記）」通例の赦で除外される私

鑄銭・八虐・強窃二盜を含めて赦の対象とされている。このような事例は、養老二年十二月丙寅条・同四年八月辛巳朔条と本条のみ」の計三条存する、とされていること抔がそれである。此等三例の中、事例18は太上天皇（元明）、事例19は右大臣正二位藤原朝臣不比等、事例76は太上天皇（光仁）。孰れも痾疾平愈祈請、病患救済冀願を「天下大赦」・渙発の所由とするものである。事例37の皇后（光明）にしても、寢膳安からず、「彌々疲勞を益す」と謂う病患を救済せんが為のものである。事例41にしても、聖武天皇が「枕席安からず」との状態により、其の治道に關逸することを憂慮しての「天下大赦」の渙発であつた。又、此の聖武天皇は、御躬自らの玉体不調の他、「猶風化未だ洽からず」とする治道姿勢をもし召して「天下大赦」の渙発を履行した（事例44）と謂う。事例80は桓武天皇に極めて縁深い人士達の凶変打続く状況に鑑みて、転禍為福の治政方針と其の具象的姿勢の一斑を詮表するものである。以上に触れた七事例18 19 37 41 44 76 80の他、39（京都新遷《山背国恭仁京遷都》）があり、是れは、他余の七事例と異なり、天皇大権発動に基づき太政官を始めとする諸官衙の指揮監督の下に天下黎庶を動員して為される謂わば国家事業である。

元 明		文 武										天皇紀 番号	事例
12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	天下(大)赦の詔(勅) 渙発所由摘要	
武藏國秩父郡より和銅獻上す。之に依り、年號改元と共に天下に大赦す。但し、八虐を犯し、故殺人、賊盜など常赦に免さざるは赦す限りに在らず。	天皇、大極殿に即位す。之に依り、先づ天下の公民を慈み賜ふべく天下に大赦す。但し、八虐の内、強竊二盜など常赦に免さざるは、赦す例に在らず。	陰陽度を失い、災旱旬を彌り、百姓飢荒して、或いは、罪網に陥る。之に依りて、宜しく天下に大赦して民と共に更新せんとす。八虐常赦の免れざる所は赦限に在らず。	西樓の上に慶雲見はる。之に依り、元を改めて慶雲元年と爲し、天下に大赦す。	天下に大赦す。	太上天皇(持統)不豫の爲、天下に大赦し、一百人の出家を度し、四畿内をして金光明經を講ぜしむ。	天下に大赦す。	始めて大宝律を講ずることに依り、天下の罪人を赦す。	神馬(瑞祥)獻上に依り、天下に大赦す。唯し、盗人は赦す限りに在らず。	天下に大赦す。但し、盗人は赦す限りに在らず。	天下に赦す。但し、十惡強竊の二盜は赦す限りに在らず。	越智・山科二山陵を營造せんとする事に依り、天下の罪ある者を赦す。但し、十惡強竊の二盜は赦す限りに在らず。	記載アリ 執行理由 記載ナシ 執行理由 記載アリ 赦限範囲 記載ナシ 赦限範囲 「天下大赦」の記載のみ 赦除 咸悉	収 載 条
○	○	○	○		○	○	○	○			○		
									○	○			
○	○	○						○	○	○	○		
			○		○		○						
				○		○							
							○?						
和銅 1・1・11条	慶雲 4・7・17条	" 2・8・11条	慶雲 1・5・10条	" 3・④・1条	" 2・12・13条	" 2・9・23条	" 2・7・30条	" 2・4・8条	大寶 1・11・4条	" 4・8・22条	文武天皇 3・10・13条		

元 正				元 明			
19	18	17	16	15	14	13	
右大臣藤原朝臣不比等の痾疾平愈を祈請し、其の所患を救はんが爲、天下に大赦すべし。私鑄錢及び盜人、並びに八虐等、常赦に免さざる者も咸悉くに赦除すべし。				伊賀國より上瑞に合へる黒狐獻上す。之に依り、衆庶と共に歡慶すべく天下に大赦す。但し、強竊二盜など常赦に免さざるは、赦す限りに在らず。			
○	○	○	○	○	○	○	
○	○		○	○	○	○	
		○					
			元正大赦の記載ナシ				
○	○						
" 4・8・1条	" 2・12・7条	養老1・11・17条	靈龜1・9・2条	靈龜1・1・10条	" 7・6・28条	" 5・9・3条	

聖武							元正		
29	28	27	26	25	24	23	22	21	20
下に赦すべしとす。	春従り亢旱にして、夏に至るまで雨降らず。百川水を減じて五穀稍に彫めり。朕が不徳を以て致す所なりとして、高年の徒及び鰥寡俾獨自存すること能はざる者には賑給を加え、天下に赦すべしとす。	京職大夫藤原朝臣麻呂等、圖負へる龜(大瑞)を獻上す。元を改めて天平とし、天下に大赦す。	並びに赦す限りに在らず。	皇太子(基王)の病患、日を経るに愈えず。此の所患を救ふべく天下に大赦す。八虐、強竊二盜等、常赦に免さざる所の者は、	皇子(基王)誕生の爲に天下の大辟罪已下を赦す。	上し、先づ仁恵を施し給ひて天下に大赦す。	所は、此の例に在らず。	陰陽錯謬して灾旱頻りに臻る。是に由りて、名山に奉幣し神祇を奠祭するも、甘雨未だ降らず。黎元業を失ふ。宜く天下に大赦すべし。強竊二盜、故殺人、私鑄錢、常赦に免さざる	太上天皇(元明)御不豫。此の病患を救済すべく天下に大赦す。太上天皇(元明)御病重篤となり、之を救済すべく天下に大赦すと共に、都下の諸寺をして轉經せしむ。
○	○	○		○	○	○		○	○
				○	○			○	
○	○	○			○	○			○
				○	○				
"	"	天平	"	"	"	神龜	"	"	"
4・7・5条	3・12・21条	1・8・5条	5・8・21条	4・10・5条	3・7・18条	1・2・4条	6・7・7条	5・12・6条	5・5・3条

聖 武							
37	36	35	34	33	32	31	30
皇后枕席安からず、百方療治すれども、未だ其の可なるを見ず。此の病患を救済せんとして天下に大赦す。	頃者天頻りに異を見はし、地數震動す。良に朕が訓導の明ならざるに由りて民多く罪に入れり。宜しく寛宥を存ぜ令めて仁壽に登せ、瑕疵を蕩して自ら新にする事を許さしむべし、として天下に大赦す。	廼者災異頻りに興りて咎徵仍りて見る。思ふに死を緩うし窮を愍みて以て寛恤を存せむ。天下に大赦すべし。	災變數見はれ、疫癘已まざるを以て、寛仁慈愛の政を爲さむ。仍りて天下に大赦す。	疫早並に行はれ田苗憔悴す。是に由りて山川に祈禱し、神祇に奠祭すれども、未だ効驗を得ず。思ふに寛仁を布きて、以て民の患を救ふべく天下に大赦す。強竊二盜、故殺人、私鑄錢等、常赦に免さざる所の者は、赦例に在らず。	比來、疫氣多く發すること有るに緣りて神祇に祈祭すれども、猶未だ可を得ず。而して右大臣身體勞すること有りて、寢膳隱かならず。朕以て惻隱す。天下に大赦して此の病苦を救はん。八虐、私鑄錢及び強竊二盜等、常赦の免さざる所の者は、並びに赦限に在らず。	阿倍内親王孝謙の立皇太子の儀あり。天下に大赦す。但し、謀殺、私鑄錢、強竊二盜は赦限に在らず。	皇后寢膳安からず。彌々疲勞を益す。朕此の苦を見て情甚だ惻隱す。宜しく天下に大赦し、病患を救済すべし。大辟罪以下及び八虐、常赦の免さざる所の者も咸く之を赦除す。
○	○	○	○	○	○	○	○
	○	○	○				
				○	○	○	○
○							
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
11・2・26条	10・1・13条	9・7・23条	9・5・19条	7・⑪・17条	7・5・23条	6・7・12条	5・5・26条

孝 謙	聖 武
<p>47</p> <p>勅すらく、比來の間、思ふ所有るに縁りて、薬師經に歸して行道懺悔す。冀はくは思想を施して、兼ねて人を濟はむと欲す。盡に瑕穢を洗ひて、更に自ら新たならしめむ、と。仍りて天下に大赦す。私鑄錢、及び八虐、故殺人、強竊二盜の常赦に免されざる者は、赦す限りに在らず。</p>	<p>45 44</p> <p>勅を宣べて曰はく、朕薄徳を以て四海に君とし臨み、夙に興き夜に寝ねて兆民を憂勞す。然れども猶風化未だ洽からずして禁を犯せる者多し。是れ訓導の明ならざるがためなり。黎首の愆咎に非ず。萬方罪有らば予一人に在らむ。咸瑕穢を洗ひて更に自ら新にせしむ。宜しく天下に大赦すべし。大辟已下、咸悉に赦除せよ、と。</p> <p>天下に大赦し、大辟罪已下、咸悉に赦除す。</p> <p>詔すらく、朕寡薄を以て恭しく寶祚を承け、恒に恐る。二儀の覆載を累して兆庶の具瞻を虧かむことを。徒らに憂勞を積みて政事闕けたるが如し。神の咎を貽せること、實に朕が躬に由れり。此者時炎蒸に屬して、寢膳豫に乖へり。百寮煌灼して、左右勤劬す。今克く天心に順ひて、灾氣を消除せむと欲す。乃ち往を改むる術を求めて、深く予に在る懋を謝す。則ち宜しく渙汗の恩を流し、蕩滌の政を施し、天下に大赦すべし。其の父母を殺し、及び佛の尊像を毀れる者は、此の例に在らず。</p> <p>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>天平勝寶 2・4・4 条</p>
○	○
	○
○	○
	○ ○
天平勝寶 2・4・4 条	<p>天平勝寶 1・4・2 条</p> <p>” 1・⑤・10 条</p> <p>” 20・3・8 条</p>

孝 謙		
50	49	48
<p>鑄錢、強竊二盜の常赦に原されざる者は、赦す例に在らず。</p> <p>勅して曰はく、初元暦を啓きて獻歳春に登けり。天地仁を行ひ、動植恵に霑ふ。古昔明主此の良辰に應りて、必ず時の和を布き、廣く慈令を施したまひき。朕薄徳なりと雖も、何ぞ茲に由らざらむ。天下に大赦すべし。其れ八虐、故殺人、私</p>	<p>詔して曰はく、頃者皇太后^{光順}寢膳安からず。稍旬月を延きて醫藥療治すと雖も、猶未だ平復したまはず。以爲らく、政治宜しきを失ひ、罪に罹れる徒有り。天此の罰を遣し、朕が身を警戒す。其れ母子の慈は、貴賤皆同じ。犯罪の徒豈に獨り親無からむや。庶はくは悉に洗滌して、憂苦を救はむと欲す。宜しく天下に大赦すべし。父母殺、佛尊像を毀ち、及び強竊二盜は此の例に在らず。</p>	<p>詔して曰はく、頃者太上天皇(聖武)、枕席穩しからず。是に由りて七々の間、四十九の賢僧を新薬師寺に屈請し、續命の法に依り、齋を設けて行道す。仰ぎ願はくは、聖體平復し、寶壽長久ならむことを。經に云はく、苦を受くる雜類の衆生を救濟せば、病を免れて年を延べむ、と。是を以て教に依り、天下に大赦す。但し、八虐を犯せるもの、故殺人、私鑄錢、強竊二盜等の常赦に免されざる者は、赦す限りに在らず、と。</p>
○	○	○
○	○	○
〃	〃	〃
6・1・5条	5・4・15条	3・10・23条

孝 謙

54	53	52	51
<p>強竊二盜の常赦に免されざる者は、赦す例に在らず。</p> <p>如くは莫く、病を救ひ年を延ぶることは、實に德政に資れり、と。天下に大赦すべし。但し、八虐、故殺人、私鑄錢、</p>	<p>及ぶ常赦に免されざる者は、赦す限りに在らず。</p> <p>勅して曰はく、比日の間、太上天皇(聖武)枕席安からず、寢膳宜しきに乖へり。朕竊に茲れを念ひ、情に深く惻隱す。其れ救病の方は、唯恵を施すに在り。延命の要は、苦を濟ふに若くは莫し。宜しく天下に大赦すべし。八虐、故殺人、私鑄錢、強竊二盜の常赦に免されざる者は、赦す例に在らず。</p> <p>勅して曰はく、頃者太上天皇(聖武)體不豫なり。漸に旬日に延びて猶未だ平復せず。如聞、災を銷し、福を致すことは、仁風に如くは莫く、病を救ひ年を延ぶることは、實に德政に資れり、と。天下に大赦すべし。但し、八虐、故殺人、私鑄錢、</p>	<p>赦す限りに在らず、と。</p> <p>勅すらく、朕至款を以て二尊の御體平安にして、寶壽増長ならむが爲に十七の間、四十九の僧を屈し、藥師瑠璃光佛に歸依して、恭敬供養し奉る。其の經に云はく、續命の幡を懸け、四十九の燈を燃して雜種の衆生を放すべし、と。竊にみるに放生の中、人を救ふに若くは莫し。宜しく茲の教に依りて、天下に大赦すべし。但し八虐、故殺人、私鑄錢、強竊二盜、</p>	<p>詔して曰はく、頃者太皇太后枕席安からず。稍に旬月に延びぬ。百方救療すれども猶未だ平復したまはず、感愴の懷、良に深きこと極り罔し。朕聞く、皇天德を輔け、德不祥に勝つと。庶くは慈令を施して、寶體を資け奉り、寢膳常の如く、起居穩便ならしめむと欲す。宜しく天下に大赦すべし。但し、八虐、故殺人、私鑄錢、強竊二盜の常赦に免されざる者は、赦す限りに在らず、と。</p>
○	○	○	○
○	○	○	○
〃	〃	〃	〃
8・4・14条	7・10・21条	6・11・8条	6・7・13条

淳 仁	孝 謙
<p>57</p> <p>勅して曰はく、朕忝しく萬邦に臨みて慮一物を軫す。味旦より治まらむ事を思ひ、夕まで惕ひて兢々たり。而して賊臣仲麻呂、昏凶狂悖にして逆を作して逋亡す。天網高く張りて、威誅戮に伏す。朕念ふに黎庶舊惡を洗滌して新美に遷善せんことを。宜しく天下に大赦すべし。仲麻呂が與黨及び常赦に免されざる所の者は、赦す限りに在らず、と。</p>	<p>55</p> <p>朕が住屋承塵の帳裏に、天下太平の字を現すこと灼然として昭著なり。斯れ乃ち上天の祐くる所、神明の標す所、遠く上古を覽、歴く往事を檢するに、書籍に未だ載せざる所、前代より未だ聞かざる所なり、方に知りぬ。佛法僧の寶、先より國家太平を記し、天地の諸神、預め宗社の永固を示せることを。此の休符を戴きて誠に嘉び誠に躍る。其れ不孝の子は、慈父も矜み難く、無禮の臣は、聖主も猶棄つ、宜しく天に従ひ本色に却還すべし。亦、王公等忠を盡して匡し弼くるに由りて、此の貴瑞を感ず。豈に朕一人能く致すべき所ならむや。宜しく王公士庶と共に、天貺を奉して以て上玄に答へ、舊瑕を洗滌して遍く新福を蒙るべし。天下に大赦すべし。八虐を犯せるもの、故殺人、私鑄錢、強竊二盜は此の例に在らず。</p>
○	○
○	○
<p>”</p> <p>8・10・16条</p>	<p>天平寶字4・11・6条</p> <p>天平寶字1・4・4条</p>

稱 德				淳 仁	
62	61	60	59	58	
<p>勅して曰はく、朕寡徳を以て萬民に君とし臨み、善化未だ宣 べず、刑辟猶衆し、宜しく天下に大赦すべし。八虐、故殺人 の常赦に原さざる所の者は、赦す限りに在らず、と。</p>		<p>勅すらく、比日の間、念ふ所あるに縁りて、三寶に歸依し行 道懺悔す。罪に泣きて網を解くは先聖の仁述なり。冀はくは 恩怨を施して、盡に瑕穢を洗はむことを。宜しく天下に大赦 すべし。強竊二盜の常赦に免さざる所の者も、咸悉に赦し除 け。但し先後の逆黨は赦す原に在らず、と。</p>		<p>詔して曰はく、日本國に御坐し坐して、大八洲國照らし給ひ 治め給ふ倭根子天皇が御命らまと勅り給う御詔を、衆諸聞こ し食さへと宣り給ふ。今年の六月十六日の申の時に、東南の 角に當りて、甚奇しく異に麗しき雲七色相交りて立ち登りて あり。示顯し賜へる瑞のまにまに、年號を改め賜ふ。是を以 て天平神護三年を改めて、神護景雲元年とす、と詔り給ふ天 皇が御命を諸聞こしめさへと宣り給ふ。又、天下の罪ある者 は咸に之を赦し除け。但し、八虐、故殺人、私鑄錢、強竊二 盜の常赦に免さざる所の者は、赦す限りに在らず、と。</p>	
		○	○	○	
○	○	○	○	○	
<p>寶龜 1・6・1 条</p>		<p>神護景雲 1・8・16 条</p>		<p>天平神護 2・4・23 条</p>	
<p>” 3・3・28 条</p>				<p>” 8・12・28 条</p>	

光 仁				
67	66	65	64	63
勅して曰はく、朕寡薄を以て忝く洪基を承く。風化未だ洽からずして恒に納隍の懷を深くし、災祥屢臻りて臨淵の念を軫かす。今初陽曆を啓きて和風物を扇ぎ、天地仁を施して動植澤を仰ぐ。思ふに時令に順ひて、式て寛宥を覃さむ。宜しく天下に大赦すべし。八虐、強竊二盜、私鑄錢の常赦に免されざる者は、赦す限りに在らず、と。	隨にあるべき政として、山部親王を立てて皇太子と定め賜ふ。故斯くの狀悟りて、百官人等仕へ奉れ、と詔り給ふ天皇が勅命を衆聞こし食さへと宣り給ふ。天下に大赦す。但し、謀殺故殺訖、私鑄錢、強竊二盜、及び常赦に免されざる者は、並に赦す限りに在らず。	強竊二盜の常赦に免されざる者は、赦す限りに在らず。 <small>(桓武)</small> 中務卿四品諱を立てて皇太子と爲す。詔して曰はく、法の天下に赦す。但し八虐を犯せるもの、及び故殺人、私鑄錢、	詔して曰はく、法の隨に皇后の御子他戸親王を皇太子と定め給ふ。故此の狀を悟りて、百官人等仕へ奉れと勅り給ふ天皇が御命を、諸聞こしめさへと宣り給ふ。故是を以て天の下廣く罪人赦し給ふ。	辭別けて詔り給はく、今年八月五日、肥後國葦北郡人日奉部廣主賣白龜を獻りき。又同月十七日、同國の益城郡人山稻主白龜を獻りき。此は則ち並に大瑞に合へり。故天地の賜へる大瑞は、受け賜り歡び受け賜り貴ぶべきものにあり。是を以て神護景雲四年を改めて寶龜元年とす。又、天の下廣く罪赦し給ふ。
○	○	○	○	○
		○		
○	○	○		
			○	○
〃	〃	〃	〃	寶龜1・10・1条
4・1・7条	4・1・2条	3・4・18条	2・1・23条	

光 仁			
71	70	69	68
<p>天下に大赦す。但し八虐、故殺人、私鑄錢、強竊二盜の常赦に免さざる所の者は、免す限りに在らず。</p>	<p>勅すらく、三春初めて啓きて萬物惟れ新なり。天地仁を行ひて動植恵に霑へり。古の明主は此の良辰に應じて、必ず恩徳を布き廣く慈令を施す。朕虚薄なりと雖も、何ぞ齊しくあらむことを思さざらむや。宜しく天下に大赦すべし。八虐、故殺人、強竊二盜、私鑄錢の常赦に免さざる所の者は、赦す限りに在らず、と。</p>	<p>勅すらく、福田を増益することは、釋教の弘濟に憑り、國祚を光隆することは、大悲の神功に資れり。是を以て比日の間、藥師經に依り賢僧を屈請し、齋を設けて行道せしむ。經に云はく、應に雜類衆生を放すべし、と。朕以に雜類の中人取も貴たり。放生に至りては理必ず急とする所なり。加以、陽氣始めて動きて仁風將に扇がむとす。此の時令に順ひて霈澤を恩施せむ。天下に大赦すべし。八虐を犯せるもの、故殺人、私鑄錢、の常赦に免さざる者は、赦す例に在らず、と。</p>	<p>勅して曰はく、朕四海に君臨し兆民を子育す。徳を崇みて淪することを忘れ、刑を恤みて寢を廢す。而も徳化未だ洽からずして、災異屢臻る。興言に此を念ひ、自ら顧みて多く慙づ。法を設くること、刑無きを期すと雖も、辜を觀ること猶泣を垂ることあり。宜しく生長の時に因りて、式て寛宥の澤を弘むべし。天下に大赦すべし。八虐を犯せるもの、及び強竊二盜は赦す例に在らず、と。</p>
	○	○	○
○			
○	○	○	○
〃	〃	〃	〃
8・10・30条	6・1・3条	4・12・25条	4・4・18条

光 仁			
75	74	73	72
<p>詔して曰はく、朕枕席安からずして、稍に晦朔を移せり。醫療を加ふと雖も未だ効驗あらず。天下に大赦すべし。但し八虐、故殺謀殺人、私鑄錢、強竊二盜、の常赦に免さざる所の者は、赦す限りに在らず、と。</p>	<p>詔して曰はく、比有司奏すらく、伊勢の齋宮に見る所の美雲、正に大瑞に合へり。彼の神宮は國家の所鎮にして、天より之に應ふ。吉にして利あらずと云ふこと無し。抑是れ朕が不徳、獨り茲を臻すのみに非ず。方に知る、凡そ百の寮、相諧りて感ずる攸ならむことを。今元正、曆を告げて吉日初めて開く。宜しく良辰に對して、共に嘉貺を悦ぶべし。天下に大赦し、元を改めて天應と曰すべし。犯八虐、故殺、謀殺、私鑄錢、強竊二盜、の常赦に免さざる所の者は、赦例に在らず、と。</p>	<p>勅すらく、朕念ふ所あり。天下に赦すべし。但し八虐を犯せるもの、及び故殺人、私鑄錢、強竊二盜、の常赦に免さざる者は、赦す限りに在らず、と。</p>	<p>勅して曰はく、頃者、皇太子病に沈みて安からず、稍く數月を経、醫療を加ふと雖も、猶未だ平復せず。如聞、病を救ふの方は、實に徳政に由り、命を延ぶるの術は、慈令に如くは莫し、と。宜しく天下に大赦すべし。但し、八虐、故殺人、私鑄錢、強竊二盜、常赦に免さざる所の者は、赦す限りに在らず、と。</p>
○	○		○
		○	
○	○	○	○
” 1・3・25条	天應 1・1・1条	” 10・8・19条	” 9・3・24条

桓 武			
79 78	77	76	
<p>頃者太上天皇(光仁)聖體不豫し給ふ。宗社盡く禱りて珪幣相尋ぎ、頻りに晦朔を移せども、未だ効驗を見ず。虚薄を顧み惟ふに、責は朕が躬に在り。事を撫して憊たむことを思ひ、載ち懷に慙ち惕る。靈ある類、人より重きは莫し。刑罰域は差ふ時は、乃ち冤感を致せり。思ふに惠澤を降して、式て聖躬を資けむ。天下に大赦すべし。私鑄錢、八虐、故殺、強竊二盜、の常赦に免さざる所の者も、咸に皆赦除せよ、と。</p> <p>詔して曰はく、朕不徳を以て寰區に臨馭す。萬姓の未だ康からざるを憂へて、一物も所を失はむことを憫む。況や復去歳稔ること無く懸磬の室稍多く、今年疫ありて天殍の徒少からざるをや。朕民の父母と爲りて撫育術に乖へり。靜に此を言ひて還りて懷に慙づ。又彼の罪あることを顧るに、責深く予にあり。若し滌蕩するに非ずは、何ぞ自ら新ならしめむ。宜しく天下に大赦すべし。犯八虐及び故殺人、私鑄錢、強竊二盜、の常赦に免さざる所の者は、赦す限りに在らず、と。</p> <p>詔して安殿親王(平城)を立て皇太子と爲す。天下に大赦す。皇太子に元服を加ふ。其の儀、天皇皇后並に前殿に御し、大納言從二位兼皇太子傳藤原朝臣繼繩、中納言從三位紀朝臣船守の兩人をして、手づから其の冠を加へしめ、了りて即ち笏を執りて拜す。勅ありて皇太子をして、中宮に參らしむ。乃ち天下に赦す。</p>			
○ ○	○	○	
		○	○
○ ○			
		○	
" "	延曆 1・7・25 条	天應 1・12・20 条	
7・1・15 条	4・11・25 条		

桓 武	
80	
詔して曰はく、朕、寡徳を以て實區に臨馭し、國哀相尋ぎて <small>皇太后高野新笠(81228) 皇后藤原乙牟漏(9310)の各薨去</small> 災變未だ息まず。禍を轉じて福と爲すことは、徳政先に居す 思ふに仁恩を布きて用て安穩を致さむ。宜しく天下に大赦す べし。私鑄錢、八虐、強竊二盜、の常赦に免さざる所の者も、 咸皆赦除せよ、と。	<small>夫人藤原旅子(754)</small> ○ ○ " 9・③・16条

献物先・使途・品目等の記事記載に関して

〈献物先〉

- あ、陸奥国鎮所 …………… ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬〔陸奥国鎮所等への私穀米献上の他、其等各処迄への其の運搬、若
 行したことを内 容とするもの。〕(聖武朝一二例)
 元正朝一例
- い、当国(献物者
所属国) 国分寺 …………… ②⑦②⑧②⑨③③③④⑤⑦③の九例(聖武朝五例
 称徳朝四例)
- う、東大寺 …………… ①⑥①⑦①⑧①⑨②②④③の八例(聖武朝七例
 称徳朝一例)
- え、筑前・播磨等・造船瀬所 …… ⑤④⑤⑤⑧⑥⑨⑤⑩②〔造船瀬所の施設機関の開設・増築と、其の運営に資用〕(称徳朝二例、光仁朝
 一例、桓武朝二例)
 お、西大寺 …………… ④⑧⑤②⑧①の三例(称徳朝二例
 光仁朝一例)

〈献物使途〉

か、窮弊者資養関係 …………… ⑭ ③③ ③⑧ ⑦⑤ ⑦⑥ ⑦⑦ ⑦⑧ ⑦⑨ ⑧② ⑨② ⑨⑧ ⑩③ ⑩④ ⑩⑤ ⑩⑥ の一五例（聖武朝一例、淳仁朝一例、称徳朝一例、光仁朝六例、桓武朝六例）

き、役夫飼養と、其の公共活動支援関係 …… ⑨③ ⑨④ ⑨⑦ （桓武朝三例）

〈献物品目〉

く、具体品目不詳 …………… 50 53 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 74 88 96 100 101 107 の二二例（称徳朝一七例、桓武朝五例）

け、稲・米（穀）…………… 1 常陸 2 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 大倭 16 越中 39 伊豫 41 因幡 45 伊勢 46 長門 47 左京（大倭） 48 近江 49 尾張 51 紀伊 52 土佐 57 伊豫 73 美濃 80 出羽 81 武蔵 84 下総 85 常陸 86 播磨 89 下野

こ、銭 …………… 15 河内 23 24 25 26 32 34 讃岐 35 36 37 40 摂津 41 因幡 42 伊豫 44 常陸 45 伊勢 46 長門 56 伊豫 57 周防 72 の一九例（献物国名記載アリ（二〇例）、献物国名記載ナシ（九例））

斯くして献物品目が稲・米（穀）の場合（a）、産出国名記載アリが二五例で約六七・六%となり、産出国名記載ナシが一二例で約三二・四%となる。これに対して献物品目が銭の場合（b）、献物国名記載アリが一〇例で約五二・六

%となり、献物国名記載ナシが九例で約四七・四%となる。仍て其等(a)(b)双方各々の産出乃至献物国名記載の多寡優劣に関しては、(a)の其れの方が、(b)の其れよりも、可成り優越していることを闡明し得るのである。

寺院関係の献物先に関しては、東大寺(う)から、当国<sup>(献物者
所屬国)</sup>国分寺(い)及び西大寺(お)へと謂う優劣の推移

変遷の蹟を察知し得よう。就中、西大寺に就いて、続日本紀四 新日本古典文学大系 15<sup>(岩波書店 発行
一九九五年六月刊)</sup>に「西

大寺の創建は、實質的には天平神護二年と見てよいと考えられる(福山敏男「西大寺の創建」『日本建築史研究』続編)。

続紀では本条(天平神護二年十二月癸巳条)の称徳の行幸後、神護景雲元年二月戊申条に長官佐伯今毛人以下造西大寺司官人の任命のことが見え、同年三月壬子条に法院、同九月己酉条に嶋院への行幸のことが見える。この前後、続紀・資賤帳には封戸の施入、地方豪族による稲・墾田・牛の献上のことなどが数多く見え、寺院の経済的基礎が急速に充実したことが知られる。同三年四月の行幸と造寺司官人への叙位は、造営工事が一時期を画したことを示しているよう。』五〇九頁補注27―四六とある見解は、極めて有益なものと言えよう。

〈献物使途〉に関して

窮弊者資養関係(か)、役夫飼養と、其の公共活動支援関係(き)、の孰れに就いて看るも、光仁・桓武両朝に最も優越していることが知られる。更に此処では、上述した当国国分寺<sup>(献物者
所屬国)</sup>(い)、東大寺(う)、西大寺(お)の三寺院への献物中に、稲・米(穀)は所見されるも、決して錢は所見されないことを指摘しておこう。是は、仏の知識

孝謙	聖 武														
③②	③①	③④	②⑨	②⑧	②⑦	②⑥	②⑤	②④	②③	②②	②①	②④	①⑨	①⑧	①⑦
板持連真釣	上野国勢多郡小領上毛野朝臣足人	飛驒国太野郡大領飛田国造高市麻呂	伊豫国宇和郡の人凡直鎌足	尾張国山田郡の人生江臣安久多	上野国碓氷郡の人石上部君諸弟	陽侯史人麻呂	陽侯史令璆	陽侯史令珪	陽侯史令珣	小田臣根成	他田舎人部常世	漆部伊波	大伴国麻呂	田可臣真束	物部連族子嶋
錢千貫を、 米三千碩を、 廬舎那仏の 知識に奉る。 知識の物進る。	知識の物進る。	知識の物進る。	知識の物進る。	知識の物進る。	知識の物進る。	知識の物進る。	知識の物進る。	知識の物進る。	知識の物進る。	知識の物進る。	知識の物進る。	知識の物進る。	知識の物進る。	知識の物進る。	知識の物進る。
無位	外従七位下	外正七位下	外従七位下	外従七位下	外従七位上	外従七位上	外従七位上	外従七位上	外従七位上	外従七位上	外従七位上	外従七位上	外従七位上	外従七位上	外従七位上
外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下
一七	八	六	一四	八	七	一二	一一	一〇	七	一一	一二	一二	一二	一二	一二
天平勝寶 1 4 1 条	天平勝寶 1 4 1 条	天平勝寶 1 4 1 条	天平勝寶 1 4 1 条	天平勝寶 1 4 1 条	天平勝寶 1 4 1 条	天平勝寶 1 4 1 条	天平勝寶 1 4 1 条	天平勝寶 1 4 1 条	天平勝寶 1 4 1 条	天平勝寶 1 4 1 条	天平勝寶 1 4 1 条	天平勝寶 1 4 1 条	天平勝寶 1 4 1 条	天平勝寶 1 4 1 条	天平勝寶 1 4 1 条

淳 仁									
稱 徳									
③③	③④	③⑤	③⑥	③⑦	③⑧	③⑨	④①	④②	④③
糺政臺少疏土師宿禰嶋村	讃岐国の人日置毗登乙虫	民忌寸磯麻呂	伊吉連真次	橘戸高志麻呂	丹波国の人家部人足	伊豫国の人直足山	撰津国武庫郡大領日下部宿禰浄方	因幡国博士春日戸村主人足	伊豫国越智郡大領越智直飛鳥麿
利波臣志留志									
己が蓄粮を出して窮弊を 資け養ふ者壹拾餘人なり。 その行ふ所少しと雖も、 義衷むべきもの有り。仍 て位一階を授く。	錢百万を献る。	錢百万、稲一万束を献る。	錢百万を献る。	錢百万を献る。	私物を以て飢うる民五十七 人を資け養ふ。爵二級を 賜ふ。	私稲七万七千八百束、鋤 二千四百卅口、墾田十町 を、当国の国分寺に献る。 その男外少初位下氏山に 外従五位下を授く。	錢百万、榲樽一千枚を献る。 錢百万、因幡国の稲一万 束を献る。	絶二百卅疋、錢一千二百 貫を献る。	墾田一百町を東大寺に献 れるなり。
正八位上	外大初位下	散位正八位上	正六位上	外従八位下	無位	外少初位下男氏山	従六位上	少初位上	従六位下(父大田)
従七位下	外従五位下	従五位下	外従五位下	外従五位下	少初位上	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下
一	一四	九	一	一二	二	一六	三	一一	六
天平寶字 8 3 22 条	天平神護 1 8 25 条	〃 1 10 19 条	〃 2 1 14 条	〃 2 2 4 条	〃 2 6 13 条	〃 2 9 13 条	〃 2 12 19 条	〃 2 21 条	神護慶雲 1 2 20 条

徳 稱									
④④	常陸国新治郡大領新治直子公	銭二千貫、商布一千段を献る。	外従六位上	外正五位下	五	〃	1	3	26条
④⑤	伊勢国多気郡の人敢磯部忍国	銭百万、絹五百疋、稲一万束を献る。	外正七位下	外正五位下	八	〃	1	4	14条
④⑥	長門国豊浦団の穀額田部直塞守	銭百万、稲一万束を献る。	外正七位上	外従五位上	六	〃	1	4	29条
④⑦	左京の人荒木臣道磨と、その男忍国	墾田一百町、稲一万二千五百束、庄三区を献る。	従八位上	●豊浦郡大領に任ず 贈外従五位下	一一	〃	1	5	20条
④⑧	近江国の人大友村主人主	稲一万束、墾田十町を西大寺に献りき。是に至りて、道磨身死りぬ。外従五位下を贈る。	外正七位上	外従五位下	一七	〃	〃	〃	〃
④⑨	尾張国海部郡主政刑部国足	当国の国分二寺に米一千斛を献る。	外正八位下	外従五位下	一〇	〃	〃	〃	〃
⑤⑩	伊豫国の人越智直国益	物を献れるを以てなり。	白丁	外従五位下	一七	〃	1	6	3条
⑤⑪	紀伊国那賀郡大領日置毗登弟弓	稲一万束を当国の国分寺に献る。	外正六位上	外従五位下	一	〃	1	6	22条
⑤⑫	土佐国安藝郡少領凡直伊賀磨	稲二万束、牛六十頭を西大寺に献る。	外従六位下	外従五位上	五	〃	〃	〃	〃
⑤⑬	船木直馬養	物を献れるを以てなり。	従八位下	外従五位下	一二	〃	1	7	26条
⑤⑭	筑前国宗形郡大領宗形朝臣深津	深津並びに竹生王、僧寿	外従六位下	外従五位下	四	〃	1	8	4条
⑤⑮	筑前国宗形郡大領宗形朝臣深津妻竹生王	応に善く誘はれて金埒の船瀬を造れるを以てなり。	無位	従五位下	一七	〃	〃	〃	〃

光 仁		稱 徳																		
⑦⑥	⑦⑤	⑦④	⑦③	⑦②	⑦①	⑦⑦	⑥⑨	⑥⑧	⑥⑦	⑥⑥	⑥⑤	⑥④	⑥③	⑥②	⑥①	⑥⑦	⑤⑨	⑤⑧	⑤⑦	⑤⑥
秦原郡主帳赤染造長浜	遠江国磐田郡主帳若湯坐部龍麻呂	道公張弓	美濃国方県郡少領国造雄万	周防凡直葦原	茨田連稲床	美作国の人財田直常人	桑氏連鷹養	栗前連広耳	田部直息磨	六人部四千代	物部孫足	国造雄万	越智直蟠淵	上忌寸生羽	秦忌寸弟磨	丹比連大倉	壬生真根磨	丈部造広庭	伊豫国宇摩郡の人凡直継人	秦忌寸真成
級を賜ふ。		各私物を以て窮民廿人已上を養ふ。爵人ごとに二	貢献れるを以てなり。	私稲二万束を国分寺に献る。	貢献れるを以てなり。	貢献れるを以てなり。	貢献れるを以てなり。	貢献れるを以てなり。	貢献れるを以てなり。	貢献れるを以てなり。	貢献れるを以てなり。	貢献れるを以てなり。	貢献れるを以てなり。	貢献れるを以てなり。	貢献れるを以てなり。	貢献れるを以てなり。	貢献れるを以てなり。	貢献れるを以てなり。	貢献れるを以てなり。	貢献れるを以てなり。
無位	無位	正八位上	外従六位下	外正八位下	外正八位上	外正八位上	外正八位上	正六位上	正六位上	外正八位下	外正八位下	外正八位上	外正七位下	外正七位上	外正八位上	外正六位上	外正七位上	外正七位上	正七位上	正七位上
少初位上	少初位上	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下
二	二	九	四	一	一	九	八	九	一	一	一	六	九	七	九	一	一	七	五	五
〃	〃	〃	〃	寶龜	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	2	1	1	3	2	2	2	2	〃	〃	2	〃	〃	2	〃	2	1	1	1
		3	4	3	8	12	12	〃	9	〃	〃	⑥	〃	〃	3	〃	3	12	10	8
		4	1	20	6	25	22	28	28			8			20		19	26	17	23
		条	条	条	条	条	条	条	条			条			条		条	条	条	条

桓武	光 仁									
	⑧⑧	⑧⑦	⑧⑥	⑧⑤	⑧④	⑧③	⑧②	⑧①	⑧⑦	⑧⑦
海上真人三狩		尾張・相模・越後・甲斐・常陸等の 国の人惣て十二人	播磨国の人佐伯直諸成	常陸国那賀郡大領宇治部全成	下総国印幡郡大領丈部直牛養	越前国の人從六位上大荒木臣忍山	伊豫国越智郡の人越智直静養女	武蔵国入間郡の人大伴部直赤男	讃岐国三野郡の人丸部臣豊球	城飼郡主帳玉作部広公 檜前舎人部諸国
	へ授く。	私の力を以て軍糧を陸奥 に運び輪せり。その運べ る多少に随ひて位階を加	稲を造船瀬所に進れるを 以てなり。	軍糧を進るを以てなり。 外正七位下	軍糧を進るを以てなり。 外正六位上	軍糧を運べるを以てなり。 從六位上	私物を以て窮弊せる百姓 一百五十八人を資け養へ り。天平宝字八年三月廿 二日の勅書に依りて、爵 二級を賜ふ。	外從五位下を追贈す。 神護景雲三年に、西大寺 に、商布一千五百段、稻 七万四千束、墾田冊町、 林六十町を献る。是に至 りて、その身已に亡す。	軍糧を助くるを以てなり。 正六位上	無位 無位 無位 無位
從五位下			大初位下	外正七位下	外正六位上	從六位上	無位		正六位上	無位
從五位上			外從五位下	外從五位下	外從五位下	外從五位下	少初位上		外從五位下 追贈・外從五位下	少初位上 少初位上
一			一四	六	一	三	二		一	二 二 二
延曆 1 5 3条		” 1 10 16条	” 1 20条	” ” 15条	天應 1 1 15条	” 11 8 14条	” 11 7 22条		” 8 6 5条	” 4 1 15条 ” ” ”

桓 武									
⑨8	⑨7	⑨6	⑨5	⑨4	⑨3	⑨2	⑨1	⑨0	⑧9
常陸国信太郡大領物部志太連大成	近江国の人勝首益磨	三野臣広主	日下部連国益	但馬国氣多団毅川人部広井	栗前連広耳	越後国蒲原郡の人三宅連笠雄麻呂	丸子連石虫	陸奥国の人安倍信夫臣東麻呂	下野国安蘇郡主帳若麻統部牛養
私物を以て百姓の急を周 へり。	これを許したまふ。	父真公に譲る。勅有りて、 位下を授くれども、その	進れる役夫惣て三万六千 餘人、私の糧を以てこれ に給す。勞を以て外従五 位下を授くれども、その	貢獻れるを以てなり。 去る二月起り十月迄に、 進れる役夫惣て三万六千 餘人、私の糧を以てこれ に給す。勞を以て外従五 位下を授くれども、その	役夫を飼養す。 私物を進りて公用を助く。 稲を船瀬に獻るを以てなり。 貢獻れるを以てなり。 去る二月起り十月迄に、 進れる役夫惣て三万六千 餘人、私の糧を以てこれ に給す。勞を以て外従五 位下を授くれども、その	稲十萬を蓄えて、積みて 能く施す。寒えたる者に は衣を与へ、飢ゑたる者 には食を与へ、兼ねて以 て道橋を脩造り、艱險を 通利く。行を積みて年を 経たり。誠に挙申せしめ、 従八位上を授く。	軍糧を獻る。 軍糧を獻るを以てなり。 稲十萬を蓄えて、積みて 能く施す。寒えたる者に は衣を与へ、飢ゑたる者 には食を与へ、兼ねて以 て道橋を脩造り、艱險を 通利く。行を積みて年を 経たり。誠に挙申せしめ、 従八位上を授く。	軍糧を獻る。 軍糧を獻るを以てなり。 稲十萬を蓄えて、積みて 能く施す。寒えたる者に は衣を与へ、飢ゑたる者 には食を与へ、兼ねて以 て道橋を脩造り、艱險を 通利く。行を積みて年を 経たり。誠に挙申せしめ、 従八位上を授く。	軍糧を獻る。 軍糧を獻るを以てなり。 稲十萬を蓄えて、積みて 能く施す。寒えたる者に は衣を与へ、飢ゑたる者 には食を与へ、兼ねて以 て道橋を脩造り、艱險を 通利く。行を積みて年を 経たり。誠に挙申せしめ、 従八位上を授く。
外正六位上	外正六位上	外正六位上	外正六位上	外正六位上	外正六位上	無位	外正六位上	外正六位上	外正六位上
外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	外従五位下	従八位上	外従五位下	外従五位下	外従五位下
一	八	一〇	一四	一四	一四	六	一	一四	二
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
5	4	4	4	3	3	3	3	〃	〃
10	12	7	4	〃	12	10	3	〃	〃
21条	10条	29条	15条	18条	18条	21条	4条	〃	〃

桓 武									
⑨⑨	朝倉公家長	軍糧を陸奥国に進るを以てなり。	外正七位下	外従五位下	六			6	12
⑩⑩	武蔵宿禰弟総	貢献れるを以てなり。	外従六位下	外従五位下	四			7	6
⑩①	多米連福雄	貢献れるを以てなり。	外正八位上	外従五位下	九			8	12
⑩②	播磨国美囊郡大領韓鍛首広富	稲六万束を水見船瀬に献る。	正六位下	外従五位下	二			8	8
⑩③	常陸国信太郡大領物部志太連大成	是の四人、或は官に居りて怠らず、頗る効績を着し、或は私物を以て所部を賑恤す。	外従五位下	外従五位上	一			9	12
⑩④	新治郡大領新治直大直		外正六位上	外従五位下	一			12	19
⑩⑤	播磨国明石郡大領葛江我孫馬養		外正八位上	外正六位上	八				
⑩⑥	下総国猿嶋郡主帳孔王部山麻呂	貧乏の徒、因りて済はるること得たり。故にこの授有り。	外正六位上	外従五位下	八				
⑩⑦	麻統連広河	物を献るを以てなり。	外正六位上	外従五位下	一			10	1
								25	条

○印付月は閏月を示す。

藤原朝臣仲満(恵美押勝)討伐関係事項に関する記事記載に関して

『続日本紀』に収載されている左掲表示の叙位・贈位者六一六名の事績・行跡内容を詳密に比較検討して、之を左記の如くA〓〇なる十五類(其の他、の一類を含めて十六類)に分類整理すると共に、各類毎の事例数の優越順次に随い、此処では、其れの最も優越する A、藤原朝臣仲満(恵美押勝)討伐関係事項に就いての鄙見を開陳することとしたい。